

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200792		
法人名	株式会社 りまる		
事業所名	グループホーム 大地(海ユニット)		
所在地	倉敷市笹沖599-5		
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 1 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づいて、アットホームで家庭的な事業所を目指しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200792-008&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	平成 28 年 10 月 15 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>優れている点として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医の受診支援があり、利用者のほとんどがかかりつけ医を継続し、受診も職員が同行して家族と連携している。 ・介護度が年々、上がりつつある中で職員体制を整え、日常的な外出支援に努めている。 ・今年度から職員自身の行動目標として、事業所の中で出来ることを設定している。 <p>工夫点としては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗面台に伸縮する蛇口を設置したり、浴槽内に腰をかけられるスペースを設ける等、利用者の利便性や安全性に配慮している。 ・昨年のステップアップを解決するために、利用者の座る位置を変更するなど、視点を変えた取り組みをしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員をはじめ来訪者にも解りやすいよう、玄関に掲示しています。	玄関に掲示するとともに、月に一度の全体会議や新人研修時にケアを振り返り、理念の共有と実践につなげている。ユニットによっては、職員の提案でロッカールームにも理念を掲示し、復唱している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を利用し、行事へ参加して頂いていますが、地域活動等への参加は出来ていません。	事業所が7月に実施する納涼会には、地域から多くの参加者がある。また、屋台には企業や歯科医院からの出店も受け入れ、にぎやかに交流している。	運営推進会議で地域行事の紹介があったり、近隣に保育所が開設されるなど交流可能な場が整いつつあるので、それらを活かす工夫が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	不十分です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動・行事予定の報告や、季節の外出等で良い場所を教えてください、良い研修の案内を共有させて頂いております。	地域包括支援センターや民生委員、連合町内会長、他事業所等の方たちが参加し、2ヶ月に一度開催している。内容は、利用状況・行事の報告と計画、地域等からの情報提供などである。出された意見は外出場所の選定等に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、生活福祉課の担当者と連絡を取りながら、協力関係を築くようにしています。	内容により、社長と管理者が分担して日常的に細やかな連携に努めている。業務で起こった事故等の報告は管理者が行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作り、職員同士共通の認識が出来るように取り組んでいます。新職員にも理解を深めていきたいです。	身体拘束の指針と方針を掲げている。身体拘束廃止委員会の中で拘束や虐待についての思いや考えを職員から聞き取り、まとめた物を全体会議で発表し、実践に取り入れている。また、外部研修で学んだ事を、月一回の内部研修で取り上げて、拘束の必要のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを閲覧出来るようにしています。新職員にも深めていきたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	不十分な為、研修等への参加や学ぶ機会を持ち、活動や支援につなげていきたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い同意を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に設けていませんが、その都度聞く様に心がけています。	利用者は日々のケアを通して、家族は面会時等に意見を聞くようにしている。出された意見は、散歩や食事のメニュー、サービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議(ユニット会議)の時間を設け、意見交換の場として活用しています。	月に一度の全体会議や日々のケアの中で、意見を聞くようにしている。出された意見はシルバーカーの利用や食事の形態改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を把握し評価につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加をすすめています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流の機会はまだまだ少ないが、近くのGHの運営推進会議に参加させて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にしっかりコミュニケーションを図り、GHでの生活の意向を聞きながら、ケアプランの作成をしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人と同様、入居時家族の意向をしっかり聞き、ケアプラン作成をしています。また随時の要望等も面会時にお聞きするように心がけています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者、看護師、介護職と相談し家族、本人の希望に添う様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の利用者が家庭的な環境の中で過ごせる様に努力しています。日常の中で寄り添い関わる時間を大切にしております。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告を行いながら、外出や外泊等のお願いをしたりまた、行事への参加も声をかけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人、家族から生活歴を聞いたり、日々の生活の中で情報を得る様に心がけています。	近隣のスーパーに買い物に行ったり、兄弟に手紙を書いたりする支援をしている。家族の協力を得て、墓参りに出かけている利用者もいるが、地元出身者が少なくなり、支援が難しくなりつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者の中に入り一緒に出来る事をしたり、利用者同士で出来る事の見守りや支援ができる環境作りに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の家族に連絡をしたり、ホーム新聞を送ったりしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活への意向を聞きケアプランに取り入れ、日々の話の中から要望が出た時にはその都度対応しています。	日々のケアの中で、利用者の声に耳を傾けるよう努めている。困難な場合は、フェイスシートや家族との連絡により、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族、本人から生活歴を聞いたり、日常生活の中で、コミュニケーションをしっかりとっていく様にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護面、看護面それぞれ個人記録に残しています。日勤者⇄夜勤者の送り時間を設け共有しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の時間を利用し、利用者の処遇を話し合い毎月モニタリングしています。	カンファレンスを基に毎月、利用者処遇会議において一人ひとりについて、計画・検討している。利用者や家族の意見も取り入れ、定期的に飲酒している人もいる。見直しは3ヶ月としているが、状況に応じて柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にし、状態や情報の共有を行い気付いた事があれば話し合いをしています。介護記録に日勤者、夜勤者が気付いた事を書ける様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	オシメ、紙パンツ使用の利用者の希望に合わせて、トイレ誘導を行ったりしています。常に柔軟な支援ができるように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々に医療機関に定期受診しています。往診医療を利用している人もいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院に定期受診しています。受診が困難な利用者に対しては、定期受診して頂き、早期に相談、指示がもらえる様にしています。	利用者のほとんどが、かかりつけ医を継続している。受診は職員同行を原則とし、家族との連携を図っている。かかりつけ医の往診もあり、利用者や家族に医療面の安心感をもたらしている。歯科も毎週、往診と口腔ケアがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師より、状態確認、受診や往診の付き添いを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会や電話で状態把握を行い、退院時には状況提供書等に基づいて助言をもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成し、家族・本人に説明し同意を頂いています。	入居時、事業所が作成した指針を利用者や家族に詳しく説明している。重度化した場合、医師・家族・事業所がチームとして支援する体制を整えている。運営推進会議でも、看取り後のカンファレンスの様子を報告している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し見やすい所に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成しています。また、地域の方にも協力して頂ける様、電話連絡の体制を作っています。	年2回、その内1回は消防署の指導を受ける避難訓練の計画を立てている。非常時には近隣の他事業所の3階に避難できるよう、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけやコミュニケーションを行なう様に心がけています。	入浴や排泄の確認時など、一人ひとりの尊重とプライバシーに配慮した言葉かけや、立ち位置等に配慮している。	トイレに置いてある外用薬の記名など、より細やかな気配りが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で希望や要望を聞く様に心がけ突発的な訴えに対してもしっかり傾聴する様になっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランにて生活への方針を定めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や嗜好を把握して、コミュニケーションの中で食べたい物等聞いています。	配食を基本としているが、日曜日や誕生日など月に数回、利用者と一緒にカレーを作ったり弁当を取ったりし、食卓に変化を持たせている。下膳等には利用者も積極的に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取チェック表を基に個々の摂取量の把握し、不足の時には好みの物を提供したり柔軟な対応を心がけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々に合わせた口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し声かけ誘導を行っています。	排泄記録に基づいた言葉かけと誘導により、昼間は、ほとんどの利用者がトイレで排泄している。夜間は、一人ひとりに応じた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取をしっかりともらえる様にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日が決まっていますが、個々の希望にそえる様に努力しています。	週3回、午前を中心に実施している。浴槽内に腰をかけられるスペースを設け、利用者の安全と利便性に配慮している。嫌がる人には、言葉かけや家族の協力等により、好んで入浴できる様に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせその都度対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書があり、看護師への報告や相談により、服薬の支援や状態確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々にしたい事、出来る事を行える様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそえない事もありますが、計画を立てながら支援できるように心がけています。	職員体制を整えたのが功を評して、日々の散歩や買い物・季節の行事等、外出支援が増えつつある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を管理している人はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者と話しながら、空調管理やテーブル等の配置を考えています。一緒に花を飾ったりもしています。	日当たりが良く、温度や湿度・音等が適切に管理されている。ソファを設置し、利用者や面会者の利便性に配慮している。また、玄関や居間には利用者の育てた花が置いてあり、利用者の生きがいとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにおいても、自分の好きな場所で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ってきて頂いたり、写真等も飾ってもらっています。	全室風通しが良く、田んぼや畑・山が見えることで、居ながらにして四季の移ろいを感じることが出来る。使い慣れたベッドやテレビ・アルバム等を持ち込み、かつての生活を生き生きと語るそんな雰囲気を出し出す利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を行い、事故のないように気をつけています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200792		
法人名	株式会社 りまる		
事業所名	グループホーム 大地(空ユニット)		
所在地	倉敷市笹沖599-5		
自己評価作成日	平成 28 年 10 月 1 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3390200792-008&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 28 年 10 月 15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に基づいて、アットホームで家庭的な事業所を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>優れている点として、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医の受診支援があり、利用者のほとんどがかかりつけ医を継続し、受診も職員が同行して家族と連携している。 ・介護度が年々、上がりつつある中で職員体制を整え、日常的な外出支援に努めている。 ・今年度から職員自身の行動目標として、事業所の中で出来ることを設定している。 <p>工夫点としては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洗面台に伸縮する蛇口を設置したり、浴槽内に腰をかけられるスペースを設ける等、利用者の利便性や安全性に配慮している。 ・昨年のステップアップを解決するために、利用者の座る位置を変更するなど、視点を変えた取り組みをしている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者・職員をはじめ、来訪者にも解りやすい様に、玄関に掲示し誰もが見える様になっています。	玄関に掲示するとともに、月に一度の全体会議や新人研修時にケアを振り返り、理念の共有と実践につなげている。ユニットによっては、職員の提案でロッカールームにも理念を掲示し、復唱している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等利用し、行事等に参加して頂いております。(餅つき等)また、地域活動等教えて頂き、清掃活動に参加しました。	事業所が7月に実施する納涼会には、地域から多くの参加者がある。また、屋台には企業や歯科医院からの出店も受け入れ、にぎやかに交流している。	運営推進会議で地域行事の紹介があったり、近隣に保育所が開設されるなど交流可能な場が整いつつあるので、それらを活かす工夫が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ不十分です。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動報告、行事予定の報告や、季節の外出等で良い場所はないかなどのアドバイスを頂いております。	地域包括支援センターや民生委員、連合町内会長、他事業所等の方たちが参加し、2ヶ月に一度開催している。内容は、利用状況・行事の報告と計画、地域等からの情報提供などである。出された意見は外出場所の選定等に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課・生活福祉課の担当者と連絡を取りながら、協力関係を築くように取り組んでいます。	内容により、社長と管理者が分担して日常的に細やかな連携に努めている。業務で起こった事故等の報告は管理者が行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作り、いつでも閲覧できる様にしています。職員同士共通の認識ができる様に取り組んでいきたいです。	身体拘束の指針と方針を掲げている。身体拘束廃止委員会の中で拘束や虐待についての思いや考えを職員から聞き取り、まとめた物を全体会議で発表し、実践に取り入れている。また、外部研修で学んだ事を、月一回の内部研修で取り上げて、拘束の必要のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作り、いつでも閲覧できる様にしています。職員同士共通の認識ができる様に取り組んでいきたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	不十分な為、学ぶ機会を持ち、活用・支援につなげていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分説明を行ったうえで同意を頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	特に機会を設けていませんがその都度聞く様に心がけています。	利用者は日々のケアを通して、家族は面会時等に意見を聞くようにしている。出された意見は、散歩や食事のメニュー、サービスに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議(ユニット会議)リーダー会議の時間を設け意見交換の場として活用しています。	月に一度の全体会議や日々のケアの中で、意見を聞くようにしている。出された意見はシルバーカーの利用や食事の形態改善に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を把握しきちんとした評価につなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順次職員を外部研修への参加を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	まだ交流する機会等は少ないですが、これから活動を増やして行きたいと思っています。他のGH運営推進会議に参加させてもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に、確りコミュニケーションを図り、G Hでの生活の意向を聞きながらケアプランを作成しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、確りコミュニケーションを図り、G Hでの生活の意向を聞きながらケアプランを作成し、また随時の要望等も面会時にお聞きするようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	計画作成担当者・看護師と相談し、家族・本人の希望の添う様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々が家庭的な環境の中で過ごせる様に努力しています。日常生活においても、関わりや寄り添う時間を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に近況報告を行いながら、外出や外泊等お願いをしたりしています。また、行事への参加等も声をかけています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・家族から生活歴を聞いたり、日々の生活の中で情報を得る様に心がけています。	近隣のスーパーに買い物に行ったり、兄弟に手紙を書いたりする支援をしている。家族の協力を得て、墓参に出かけている利用者もいるが、地元出身者が少なくなり、支援が難しくなりつつある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、利用者間に入り一緒に出来る事をしたり、皆で会話ができたり、カラオケを楽しんだり出来る環境作りをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の家族に連絡をしたり、また、ホームで作った新聞を送ったりしています。また、家族の方から近況を教えて頂いたりもしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活への意向を聞きケアプランに取り入れています。日々の話の中から要望が出た時にはその都度対応しています。	日々のケアの中で、利用者の声に耳を傾けるよう努めている。困難な場合は、フェイスシートや家族との連絡により、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族・本人から生活歴を聞いたり、日常生活の中でコミュニケーションをしっかりとっていく様にしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護面・医療面それぞれ個人記録に残しています。日勤→夜勤・夜勤→日勤時での特変があった利用者は口頭で伝える様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議の時間を利用し、利用者の処遇を話し合い毎月モニタリングしています。	カンファレンスを基に毎月、利用者処遇会議において一人ひとりについて、計画・検討している。利用者や家族の意見も取り入れ、定期的に飲酒している人もいる。見直しは3ヶ月としているが、状況に応じて柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にし状態や情報の共有を行い、気付いた事があればその都度話し合いをしています。また、月初めの介護記録の様式に、日勤者・夜勤者が気付いた事が書ける様にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	オシメ・リハビリパンツ使用の利用者の希望等に合わせ、トイレ誘導を行ったりしています。常に柔軟な支援ができる様に努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個々に医療機関に定期受診しています。往診医療を利用している利用者の方もいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医院に定期受診(1回/月)しています。受診が困難な利用者に対しては、定期往診して頂き何かあれば早期に相談、指示がもらえる様にしています。	利用者のほとんどが、かかりつけ医を継続している。受診は職員同行を原則とし、家族との連携を図っている。かかりつけ医の往診もあり、利用者と家族に医療面の安心感をもたらしている。歯科も毎週、往診と口腔ケアがある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師により状態の確認、定期受診・往診時の付き添いをしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な電話や面会による状態把握を行い、退院時には、情報提供書等に基づいて助言等をもらっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を作成し、家族・本人に説明し同意書を頂いております。	入居時、事業所が作成した指針を利用者や家族に詳しく説明している。重度化した場合、医師・家族・事業所がチームとして支援する体制を整えている。運営推進会議でも、看取り後のカンファレンスの様子を報告している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、見えやすい所に掲示しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、見えやすい所に掲示しています。また、地域の方にも協力して頂ける様に電話連絡が取れる体制を作っています。	年2回、その内1回は消防署の指導を受ける避難訓練の計画を立てている。非常時には近隣の他事業所の3階に避難できるよう、協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声かけやコミュニケーションを行なう様にしています。	入浴や排泄の確認時など、一人ひとりの尊重とプライバシーに配慮した言葉かけや、立ち位置等に配慮している。	トイレに置いてある外用薬の記名など、より細やかな気配りが期待される。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話の中で希望や要望を聞いたりしています。突発的な訴えに対してはしっかり傾聴する様に心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランにて生活への方針を定めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々に合わせています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事形態を把握しています。日々の会話の中で食べたい物などを聞く様になっています。	配食を基本としているが、日曜日や誕生日などに数回、利用者と一緒にカレーを作ったり弁当を取ったりし、食卓に変化を持たせている。下膳等には利用者も積極的に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表があり、個々の食事量の把握ができる様にしています。摂取不足の時には、好みの物を提供したりして補う様にしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを個々に合わせて行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し声かけ誘導を行なっています。	排泄記録に基づいた言葉かけと誘導により、昼間は、ほとんどの利用者がトイレで排泄している。夜間は、一人ひとりに応じた対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある利用者の方にはしっかり水分を摂ってもらう様にしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の希望を聞いたりしてその人のペースに合わせてしています。	週3回、午前を中心に実施している。浴槽内に腰をかけられるスペースを設け、利用者の安全と利便性に配慮している。嫌がる人には、言葉かけや家族の協力等により、好んで入浴できる様に配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の合わせて、その都度対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のカルテに、服薬中の薬の説明書があり、分からなければ看護師に聞く様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で個々にしたい事・出来る事を行えるようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望にそえない事もありますが、計画等を立てながら、支援できるよう心がけています。	職員体制を整えたのが功を評して、日々の散歩や買い物・季節の行事等、外出支援が増えつつある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を管理している利用者の方は今のところ居ないです。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方と話をしながら、空調管理をしたり、ソファやテーブルの配置などを変えたりしています。	日当たりが良く、温度や湿度・音等が適切に管理されている。ソファを設置し、利用者や面会者の利便性に配慮している。また、玄関や居間には利用者の育てた花が置いてあり、利用者の生きがいとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでも、自分で好きな場所で過ごして頂いています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものを持ってきて頂いています。	全室風通しが良く、田んぼや畑・山が見えることで、居ながらにして四季の移ろいを感じることが出来る。使い慣れたベッドやテレビ・アルバム等を持ち込み、かつての生活を生き生きと語るそんな雰囲気醸し出す利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備を行い事故の無い様に気を付けています。		